

平成 26 年度行政評価（外部評価）議事要旨

議 事 概 要	
会議の名称	平成 26 年度行政評価（外部評価） ※ホール公演事業
開催日時	平成 26 年 11 月 29 日（土）午前 11 時から正午まで
開催場所	市役所北庁舎 2 階第 5 会議室
出席者氏名	委員 和泉 潤 委員 塚田 敏彦 委員 高野 晃二 委員 島田 智子 委員 荒川 敬子 担当課 暮らし文化部長 布川 一重 文化の家事務局長補佐 浦川 正 文化の家事業係長 生田 創 事務局 行政経営部長 松井 豊明 行政経営部次長 三浦 肇 経営管理課長 高木 昭信 経営管理課長補佐 門前 健 経営管理課主事 清水 裕穂
傍聴者人数	4 人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	ホール公演事業について
問 合 先	長久手市行政経営部経営管理課 0561-56-0600
備 考	

担当課	<p><平成 26 年度長久手市行政評価（外部評価）資料に沿って説明></p> <p>今回の評価対象はホール公演事業ということでよいか。説明では文化の家の他の事業についても説明をしていた。</p> <p>説明では文化の家全体のことについても触れていたが、評価の対象は、ホール公演事業をお願いしたい。</p> <p>説明資料の⑥-1 は、ホール公演事業の成果指標ではなく、事業全体の成果指標ということか。</p> <p>事業全体の成果指標である。ホール外でやっている事業もこの事業につながるため、全体の成果指標を説明した。</p> <p>明確に区分はできないが、今回はホールに焦点をあてて評価をお願い</p>
委員	
事務局	
委員	
担当課	
会長	

委員

いしたい。

各事業の定員充足率がホール公演事業の成果指標になっており、目標値は過去3年の平均定員充足率となっているが、アーティストが行う事業もあれば市民が行う事業もあると思う。それぞれの事業は種類が異なっているため、それぞれに目標値と結果があると思うが、それを平均して目標としてしまうことは良いのか。

担当課

イベントの結果をなんらかの数値で表そうとすると、入場者数に係る充足率となってしまふ。多様な事業をやっているので、おっしゃるとおり、それぞれで目標が変わってくる。これを平均してしまふのではなく、満足度などの指標を入れることが必要だと考えている。

委員

昔、文化の家の事業でバスに乗って視察ツアーを催していたという話を聞いた。それも好評でなかなか当たらない、また、参加者も市外の方ばかりであると聞いた。市外の方を参加させるメリットを教えてほしい。市民の税金で行っているのだから、市外の方優先ではなく、市内の方を優先にしてほしい。

委員

今の話は充足率にも関係するが、76.99%という成果目標があるが、細かい数字を出して意味があるのか。目標値としてこういった数字を出すのが不適切であると考えます。目標値は100%であるべきではないか。どの事業であっても、定員いっぱい来ていただきたいし、定員の4分の1は来なくてもよいという話ではない。なぜ充足率100%を達成できなかったのかをチェックし、次につなげるのがとても重要であるので、こういった体制を作る必要がある。今回、成果実績が72%であり、平均値である目標の76.99%を5%達成できなかったが、その原因をチェックしているか。

担当課

公演数や公演によって定員数が減ることにより、毎年分母が変わっている。昨年度で言うと、公演数が少し減っている。また、文化の家単独で行っている公演と、共催で行っている提携事業の公演があるが、提携事業について充足率が少し低くなってしまった。これは、協力して行っているPRに原因があると考えている。

委員

そういった話は、評価を行うことが非常に重要で、次にどのようにつなげて行くかを考えなければならない。そういった意味では目標は100%とし、なぜその目標を達成できないのかを考えると、公演の内

	<p>容や PR の仕方などいろいろあるが、そういったことを積極的に議論して良い方向に改善しなければいけないと思う。</p>
委員	<p>今日、説明していただいたのはホール公演事業の結果についてだが、公演事業というのは企画段階がとても重要であると思う。企画段階の取組とどういう結果を出しているのかを説明いただきたい。</p>
担当課	<p>企画自体は事業系の職員が企画立案をし、企画委員会でその内容を諮る。さらに運営委員会で承認を得て、事業化していく。各公演でアンケートをとり、満足度であったり、各項目について精査し、それに基づき次の企画を立てていく。委員には市民の方や専門家の方がいるので、その意見を取り入れながら行っている。</p> <p>文化の家というのは、単なる箱ものではないということを前提に建設した。近隣市町で文化会館などのハード整備が進む中で、長久手市は一番遅れていた。後発で造るのであれば、地域文化の発信交流拠点となって、交流が生まれるようにと造った。ただ単に箱ものを造って、貸館をして公演を行えばよいというわけではなく、そういったポリシーを持とうということで、文化マスタープランを開館と同時に作成した。この文化マスタープランに基づいて担当で企画立案し、専門家や市民の意見を踏まえながら企画を作成し、実施、総括をして次年度へつなげるという PDCA サイクルを持っている。</p>
委員	<p>プランがあれば、プランから出てくるものが成果指標の一つの基礎になると思う。いきなり充足率が出されてしまうと、せっかく途中で苦労されているプロセスが消えてしまうと思う。マスタープランに沿った結果と成果を評価するとよいと思う。</p>
委員	<p>成果指標としている充足率について、3つのホールの利用率に対しての充足率という理解でよろしいか。または、展示室等も含めたすべての貸部屋の利用率に対しての充足率か。</p>
担当課	<p>充足率というのは、その公演事業に定員があり、その定員に対して何人来場者がいたかというのが充足率である。ホールが年間使われている稼働率というのは加味していない。</p>
委員	<p>目標値を達成できなかった場合、どこをどのように改善すればよいという具体的なことがわかるような成果指標であると良いと思う。評価票にある予算の見方を教えていただきたい。</p>

担当課

事業費は、事業公演委託費が大きな割合を占めている。それに加えて、出演料、PR の為のチラシ作成料、記録として残すための撮影委託等がある。

委員

平成 24 年度の実績が 81%で平成 25 年度の実績が 72%ということで、9%下がっている。この原因は公演数が減ったことによると聞いたが説明していただきたい。

担当課

公演はアーティストなどの日程調整から始める。毎年何本公演をやるというのは決まっておらず、毎年行っている事業もあるが、全体的には変動する。昨年度は日程調整の関係などで公演数が減った。

森のホール、風のホール、光のホールと 3つのホールがあるが、森と風のホールは可変式といって、席数を変えることができる。公演によって毎回席数が変わる。公演数や公演の内容によって毎年分母が変わり、充足率が減ることもある。

委員

ホールを使うための登録団体というのがあると思うが、登録していないと借りられないという認識でいいか。

担当課

ホールだけでなく、アトリビングや全ての貸部屋は利用登録をしないと借りることができない。

委員

市内外の多くの人が登録しているが、市民が使いたい時に使えないという話を聞く。何%を市民に利用してもらおうという目標値はあるのか。

担当課

特に市内、市外の区別はしていない。文化芸術に関する事業とそれ以外の事業については、予約できる期間が違っている。

委員

ホール公演事業で 48 事業開催とあり、一方で自主事業が 142 事業となっているが、事業の中身が違うということか。

担当課

森のホール、風のホールを使った事業がホール公演事業で、48 事業開催した。自主事業の 142 事業については、外で行ったものも含めた数字である。

委員

瀬戸市文化センターは 5 事業となっているが、少なくないか。

担当課

全国的には、瀬戸のように運営されている施設の方が圧倒的に多い。

委員

年間で瀬戸市文化センターは 5 回しか使われていないことになるのか。

担当課

自主で行っている事業だけの数であり、貸館や提携事業は含んでい

ないため、少ない事業数となっている。

委員

市民の視点から言うと、文化の家が様々な事業をやってくれると嬉しいと思う。例えばアイドル歌手を呼んでのコンサートなども市民にとってはいい文化の家のあり方だと思う。集客力があるイベントをもっと取り込んで行っていけば、市民にとっても文化の家がもっと身近なものになると思う。文化の家は、成人式や合唱コンクールなども行って、市民にとってなじみ深い場所になっていると思う。自主公演事業という線を引かずに、利用状況をもっとアピールしたほうが良いと思う。

委員

平成 19 年に文化活性化について国から表彰を受けているようだが、その状態を今も継続しているのか。

担当課

文化庁が劇場法という法律を作り、ホールは単なる箱ものではなく、社会包摂といって社会の福祉、文化に寄与するものでなくてはならないという趣旨で作られた。これはまさに文化の家が行っていることである。つまり文化の家は全国に先駆けて事業を行ってきた。しかし、税金を使っている事業であるので、市民の方の意見を取り入れ運営していくことも重要だと考えており、先ほどの市民優先枠についても、市民の方に考えていただくということで、昨年一年間市民ワークショップを開催した。その結果、今までどおり市内外区別なく利用していただくという結論になった。事業数に関して、事業には関連事業というものがあり、例えばオーケストラの公演の前日に子供向けの講演を行ったりというのがあり、48 事業という結果になっている。

委員

私も文化にボーダーはないと考える。基本的には文化の家がこれまでとってきたスタンスで良いと思う。文化や教育は数値化しにくいものであると思う。市全体の事業はこの評価票で全ての事業を評価しているが、この評価票のフォーマットに合う事業と合わない事業がある。無理に合わせるのではなく、評価の仕方自体についても考えていかななくてはいけないと思う。

委員

数字ではなく、質の高いものを目指していただきたい。いろいろな事業を実施されているので、評価に値することだと思う。

委員

最終的にこの数値で評価し、B という評価になっているが、こんなに一生懸命やられていて不本意だと思う。それについて、どのように

担当課	<p>考えるか。</p> <p>これだけの事業をやり、事業をやるのにスタッフも毎日必死になって取り組んでいるので、数値だけでは現れない部分も公演事業にはたくさんあると思う。来庁者や市民に満足していただくものを提供するのが私どもの使命だと思っているので、それを心がけていきたい。</p>
委員	<p>それを達成されているのであれば、もっとアピールして欲しいと思う。文化の家は箱としての大きな改修も必要となっていて、市民の厳しい目もあると思う。その時に、これをしっかりやっているというアピールをすると、市民からしてこれからも続けてほしいという気持ちになると思う。お願いになるが、活動のアピールということも行ってほしい。</p>
委員 担当課	<p>運営委員会と企画委員会について少し説明して欲しい。</p> <p>運営委員会というのは、文化の家全体、建物の管理運営から貸館のこと全般にわたって話し合われる。企画委員会は、本日のホール公演事業や自主事業についてその内容を検討する委員会となる。</p>
委員 担当課	<p>どういった方が委員になられるのか。</p> <p>大学の教授や長久手市の劇団やフレンズの方、公募市民の方が委員となっている。</p>
委員	<p>マスタープランについて、2007年に策定され随分時間が経っているが、見直しの状況はどうか。</p>
担当課 委員	<p>見直しがちょうど策定から10年の3年後となる。</p> <p>10年単位だが普通は5年程度でチェックするはずだが、チェックはできているか。</p>
担当課	<p>3年毎にチェックをかけるということになっているが、実際にはチェックできている部分とできていない部分があり、近々の課題である。</p>
委員	<p>公演事業に関しては時代がどんどん進んでおり、3年という期間でも古くなっていると思う。それを反映させなくてはいけないので、マスタープランは常に見直しをかけることが必要であるし、充足率72%というのも、前の環境から流れはどんどん変わっているの、流れに乗り切れていないと思う。そういったことから見直しは必要であり、毎年行ってもよいと思う。</p> <p>評価をBとしているが、改善方法にPRを上げているが、PR以外</p>

に何か改善方法を考えているか。

担当課

住民の方に運営や事業を考えていただくということで、昨年もワークショップを行っているが、そういった方向に進んで行くと考えている。今のマスタープランは町の時代に策定したものであり、今後は大規模改修も控えている。また、運営形態について、文化の家は市の直営で運営しているが、全国では指定管理が通常であり、直営は珍しい部類に属する。他の自治体では文化協会や NPO 法人、芸術団体などに指定管理している例が多い。本市においても、施設に対する行政の関わりの変化について、そろそろ打出す時期に来ていると考えている。

会長

文化事業に関してはとても重要な事業で、レベルを上げていく必要があるが、どのように評価していくかが問題である。そのためにある程度見える化をしていかななくてはならない。文化活動に関しても環境の変化に対応できるような体制作りも必要である。文化マスタープランは変えてはいけないものではないので、状況が変われば変えて対応しなくてはならない。